

あらゆる部門のひやりとした経験

院内ネットの情報収集

ちょっとしたミスが重大な医療事故につながることもあり得ます。阪大病院では、院内コンピュータネットワークをうまく使い、あらゆる部門のエラー情報を収集。原因を分析し、事故防止対策を立て、速やかに現場にフィードバックして、医療事故ゼロを目指しています。その中心となっているのが、今年4月に発足したクオリティマネジメント部です。1999年に横浜市立大学医学部で起こった患者取り違え事故を機に院内に設置されたリスクマネジメント委員会の実戦部隊ともいえます。

4月スタートのクオリティマネジメント部
医療事故ゼロ目指す

ミス把握のシステム 阪大病院では、お互いの失敗から学ぶシステムを構築することが事故防止のポイントだと考えています。院内でどんなミスが起こっているのかを把握するために院内コンピュータネットワークを利用したインシデントレポートシステムを開発し、昨年からは開始しました。インシデントとは、医療事故にはつながらなかった、ひやりとした経験などをさします。病院内では従来から看護部でヒヤリハット



点滴にも目を配る院内の安全パトロール

とノートを病棟ごとに置いて、原因を分析して、ミスをなくすように努めてきました。しかし、すべての職種からインシデントを集めるシステムはありませんでした。簡単に報告する工夫 同部部長の武田裕教授と中島和江副部長が作りだした我が国で初めての電子化インシデントレポートシステムは、自分が犯したり目にしたインシデントをだれでも、どこでも、いつでも簡単に身近にあるコンピ

ューター画面で記入、データベースに送信できるように、工夫されています。 コンピューター画面に現れる記入シートは、ミスを起こした職種、時間場所やインシ

原因分析

素早く改善

すべての部門から報告 このシステムに変えてから、これまでほとんどインシデント報告のなかった医師をはじめすべての部門からレポートがあがるようになりました。これは、手書きの報告書と違い短時間で入力できること、匿名性が守られること、報告に基づいてアクションやフィードバックが実

際に行われているからだと思います。安全パトロール実施 リスクマネジメント委員会は、安全な業務手順が各部門で守られているかチェックするために、委員2人1組ですべての部署を定期的にパトロールしています。専任のリスクマネージャーである同部副部長の八田かずよ看護部長はインシデ

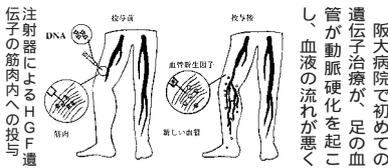
の日のインシデントのまとめをして、根本的な原因分析、予防策の提案を書き、他の委員に院内Eメールで回覧。各委員も意見があれば記入し、委員会としての予防策、改善策がまとまれば、クオリティマネジメント部がリスクマネジメントコースとして院内ネットに流すとともに、院内新聞として各部門のすべてのリスクマネージャーに書き、改善に必要な支援をします。重要な注意事項には「WARNING」警告と大書されます。会議だけではなく、院内Eメールを使った迅速なアクションが本日の事故防止体制の特徴の一つです。

99年には事故防止マニュアルが作成され、昨年には全職員を対象にした安全教育プログラムが始まっています。このプログラムを受講した職員はネームプレートに、安全と書かれたシールを受講回数分貼ることになっています。 医療の質向上に貢献 これまでの成果として、薬のオーダーシステムの見直し、異型輸血を防ぐための方法などいくつかの安全システムが導入されました。クオリティマネジメント部では事故防止だけでなく、医療の質の向上のために努力していきたいと、考えています。

阪大病院初の遺伝子治療 6月開始



第1回遺伝子投与



阪大病院で初めての遺伝子治療が、足の血管が動脈硬化を起こし、血液の流れが悪くなり、ひどくなる足

閉塞性動脈硬化症は重症になると、安静時でも足に痛みがあり、足が腐って医学用語で潰瘍、壊死といえます。その新たな新しい血管移植か、足の切断しが治療法が

者さまに対して行われています。導入された遺伝子によって新しい血管ができ、症状が改善することが期待されています。

F)をつくる遺伝子を使った遺伝子治療です。肝細胞増殖因子は、肝臓の細胞を増やすサブクターとして発見されましたが、阪大医学部遺伝子治療学、森下竜一助教は、1994年

方法には使われる遺伝子は違いますが、米国の足の血管の話を使って確かめておいて、詰まった個所の検査で、効果があるかなにかを見るということを十分に説明して、この治療を受けることを納得されています。インフォームド・コンセントをきかんとします。

6月25日に老年・高血圧内科教授佐藤博幸氏による第1回の遺伝子投与が行われました。この投与は、アレルギー反応が起らないかなどの事前投与で、7月

9日から本投与を始めました。 森下助教は、阪大で発見された遺伝子を使った遺伝子治療が阪大病院で行われるなんて、うれしいことです。効果が表われれば、同じ病気で悩む人たちの希望になります。私はHGFをHepG2、Growth factor(幸福成長因子)の略だと考えていますと、話しています。

閉塞性動脈硬化症の6人 血管新生を期待

ありませんでした。歌の村田英雄さんが同じ病気で足を失っています。この病気に対する遺伝子治療は、まだ臨床研究段階ですが、安全性が確認され、効果が認められれば、重

また、機能制御外科でも心筋梗塞の患者さまへのHGFを利用した遺伝子治療計画があります。

ふれあい看護を体験

日本看護協会は、5月12日を「看護の日」として、その日を含む1週間を看護週間とし、多くの病院で一般の方々に実際に患者さまの看護を経験していただく「看護体験」を実施し、10年が経過しています。阪大病院でも、新病院移転後毎年行い、今年で計97人が参加されました。当日、体験者は白衣に着替え、指導看護婦と一緒に、血圧測定や清拭・洗髪、車イス介助による散歩、患者さまとの会話等を経験し、看護への認識を新たにいただきました。

移植手術の患者さまが退院

5月18日、阪大病院で脳死肺移植を受けた患者さまが退院されました。この患者さまは、今年3月19日に、日本で初めての両肺移植手術を受けられましたが、阪大病院の肺移植では3例目になります。また、同じく阪大病院では4例目となる心臓移植を今年2月に受けられた患者さまが5月23日に退院されました。それぞれ退院の日々に記者会見が行われましたが、お二人とも脳死での臓器移植を受けた患者さまでは初めて元気な姿を新聞やテレビで映し出されることになりました。

搬送の児童4人を治療

6月8日午前11時ごろ大阪教育大付属池田小学校の乱入殺傷事件で児童3人が阪大病院救命救急センターに運ばれました。うち一人は来院時呼吸停止の状態、12時32分逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。他の2人の児童は一命を取りとめ、さらに他院から転院してきた1人の児童とあわせて3人が治療中でしたが、7月9日までに3人も退院されました。この間、遺山教文部科学大臣や池坊保子文部科学大臣政務官がお見舞いに来られました。一番安全であるべき施設において起こった事件だけに、本院でも夜間等の出入り口を限定し、警務員の増員を図りました。

尾身幸次大臣が本院を視察

7月3日、尾身幸次沖繩・北方、科学技術政策担当相が来院され、科学振興についての政府及び大臣の構想を説明されました。松澤病院長から本院が我が国に先駆けて実践してきた移植医療や遺伝子治療、未来医療実践センター設置構想などの説明を受けた後、レポートと遺伝子治療用病室を視察されました。

美しい音色に包まれ 七夕コンサート開催

7月6日午後6時半から阪大病院エントランスホールで、恒例の七夕コンサートが開かれました。写真、今回の出演は、相愛大学音楽学部2年生の榎谷優子さん、中須賀紗織さんと、大阪大学マンドリンクラブの学生ボランティアのみなさん。榎谷さんはヴァイオリンで「タイスの瞑想曲」など8曲を演奏、会場は榎谷さんの奏でる美しい音色に包まれました。マンドリンクラブのみなさんは「慎吾ママのおはロック!アンパンマン」などを演奏、会場には曲と口ずさむ患者さまもあられました。



質問箱

Q 外来通院中ですが、夜間等に病状が悪化したとき病院の代表電話に連絡しましたが、どうしたらいいかわからなくて困りました。

A 夜間(午後5時半以降)と土・日・祝日は、電話交換業務を休んでいるため、テープによる案内をしています。代表番号06-6879-5111は、病院だけではなく医学部、歯学部、歯学部附属病院の案内もしていますので、少し分かりにくいかもしれませんが、追加ダイヤル方式という方法で番号を案内しています。聞きたい案内の番号をどの時点でも押していたら、その案内に切り替わります。外来通院中の患者さまの急変の際は基本的に診察の要否あるいは診察の可否等を当該診療科(12番)の当直医とご相談いただき、決めていただくこととなります。その他の案内としては、11番では診療受付、面会、交通手段を、21番ではその他緊急のお問い合わせ先として事務当直を案内しています。

阪大病院の病棟を機能的・効率的に運営するために、これまで医学部の講座を分けていた内科病棟を内科系科として、昨年から臓器別・疾患別に統合されています。それまでは、第一内科、第二内科、第三内科などと、医学部の講座別に病棟を分けていました。しかし、消化器に関する疾患については第一内科でも、第二、第三内科でも診ていました。また、第一、第二内科とも循環器疾患を診る部門がありました。すると、病棟で

内科再編図		
【従来の内科】	【再編成後の内科】	
	院内診療科名	
	循環器内科	
	腎臓内科	
	消化器内科	
	内分泌・代謝内科	
	呼吸器内科	
	免疫・アレルギー・感染症内科	
	血液・腫瘍内科	
	老年・高血圧内科	
第一内科	内科系科	
第二内科		
第三内科		
老人科		
血液・腫瘍内科		
		脳神経精神科診療部門に統合されています。
		なわがままの神経内科

このため、昨年6月から病棟を循環器内科、腎臓内科、消化器内科などと臓器・疾患別に再編成しました(図参照)。病棟で使う機器も共通になり、看護師も専門的なケアが可能になりました。また、

内科病棟の機能的運営のため 臓器・疾病別に統合 専門的なケアが可能に

利用する医療機器なども消化器にも循環器にも対応できるだけのものをそろえなければなりません。また、患者さまにもわかりやすく、運営上の欠点になっていました。このため、昨年6月から病棟を循環器内科、腎臓内科、消化器内科などと臓器・疾患別に再編成しました(図参照)。病棟で使う機器も共通になり、看護師も専門的なケアが可能になりました。また、

5回生の試験風景

① 聴診 ② 血圧測定 ③ 縫合



4回生から医療面接、一仕方、縫合、糸の結び、身体診察法をはじめ、手術室へ入るための力、手洗いの

学部学生が病棟で診療実習 クラークシップ

阪大病院の病棟を機能的・効率的に運営するために、これまで医学部の講座を分けていた内科病棟を内科系科として、昨年から臓器別・疾患別に統合されています。それまでは、第一内科、第二内科、第三内科などと、医学部の講座別に病棟を分けていました。しかし、消化器に関する疾患については第一内科でも、第二、第三内科でも診ていました。また、第一、第二内科とも循環器疾患を診る部門がありました。すると、病棟で

阪大病院の病棟を機能的・効率的に運営するために、これまで医学部の講座を分けていた内科病棟を内科系科として、昨年から臓器別・疾患別に統合されています。それまでは、第一内科、第二内科、第三内科などと、医学部の講座別に病棟を分けていました。しかし、消化器に関する疾患については第一内科でも、第二、第三内科でも診ていました。また、第一、第二内科とも循環器疾患を診る部門がありました。すると、病棟で

医技能の・マナー学び 基本を体験

クラークシップは、1人1人の患者さまを担って、5回生が病棟で診療にかかわるクラークシップが今秋から始まります。医師になるための貴重な実習です。患者さまにもわかりやすく、運営上の欠点になっていました。このため、昨年6月から病棟を循環器内科、腎臓内科、消化器内科などと臓器・疾患別に再編成しました(図参照)。病棟で使う機器も共通になり、看護師も専門的なケアが可能になりました。また、

クラークシップは、1人1人の患者さまを担って、5回生が病棟で診療にかかわるクラークシップが今秋から始まります。医師になるための貴重な実習です。患者さまにもわかりやすく、運営上の欠点になっていました。このため、昨年6月から病棟を循環器内科、腎臓内科、消化器内科などと臓器・疾患別に再編成しました(図参照)。病棟で使う機器も共通になり、看護師も専門的なケアが可能になりました。また、

医師会便り

大阪大学医学部医師会会長 松田 暉

大阪大学医学部附属病院は地域医療に積極的に貢献し、病診連携の円滑化を図るために大阪大学医学部医師会が中心となり吹田市医師会の協力を得て、1993年9月に地域医療連携推進センターを設置、研修登録医制度の普及と広報、本院で開催する研究会抄読会等広報、紹介患者さまの受け付け及び診療予約、高度医療に関する情報の提供、その他の医療の連携等の業務を行ってまいりました。今年4月、これまで以上に地域医療連携を推進し、病院機能の向上を図るために、従来の地域医療連携推進センターを改組して保健医療福祉ネットワーク部が開設されました。これにより従来の紹介患者さまの受け入れのみならず、退院転院患者さまの逆紹介も含めた幅広い病診連携、病診連携を推進していくことが可能となりました。また、在宅患者さまに対する退院後のケアのために、専門看護外来を設け、医療ソーシャルワーカーも配置していく計画です。

これ以外にも、大阪大学医学部附属病院では診療情報共有して病診連携、病診連携のさらなる効率化を図るためにインターネットを介した電子カルテの実験的運用を準備中であり、地域医療連携は今後さらに推進されていくものと期待されます。未来医療開発専攻 臓器制御外科(教授)